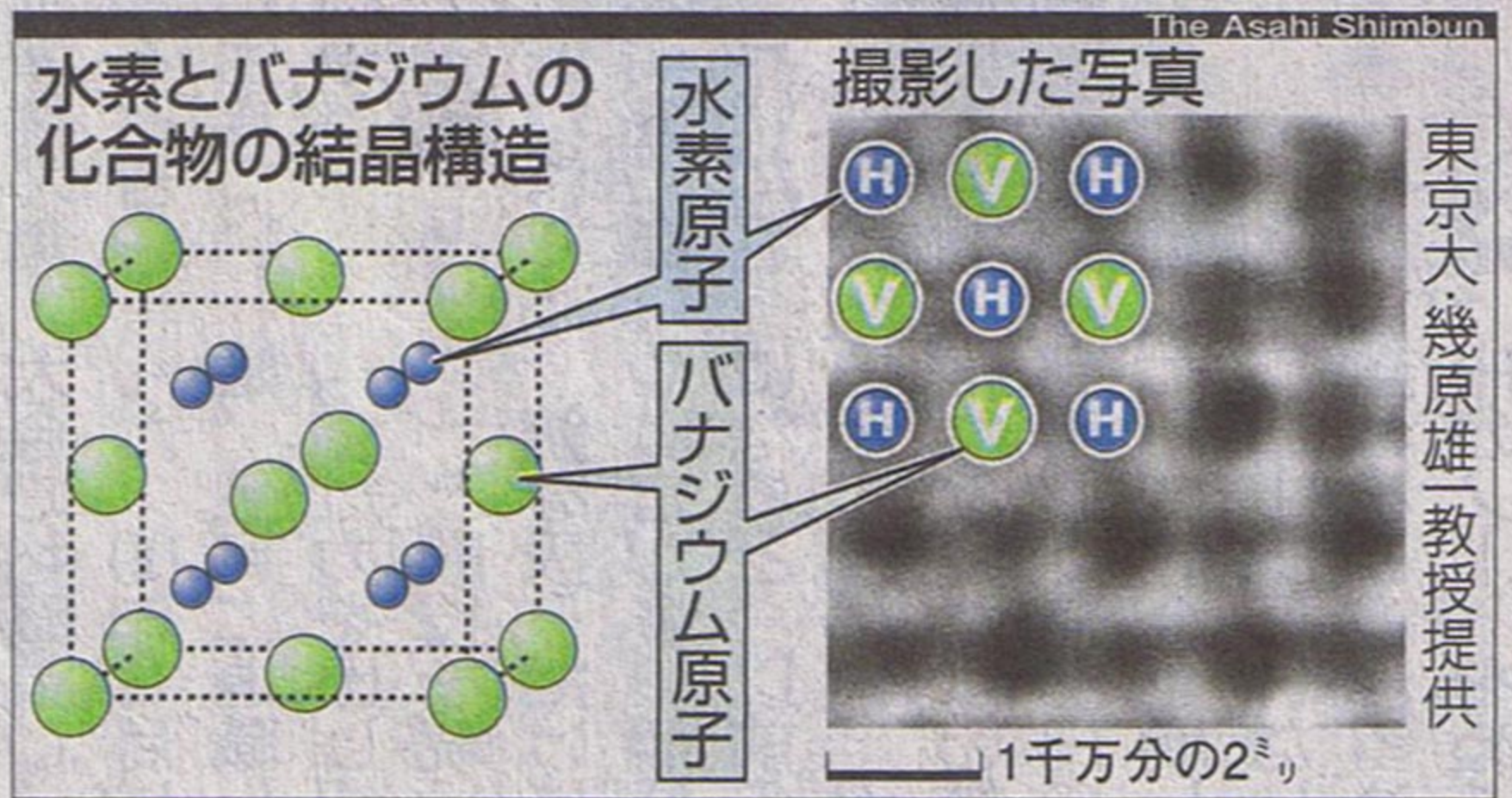


水素原子の撮影 東大チーム成功

元素の中で最も小さい水素原子の撮影に、東京大の幾原雄一教授（材料科学）らのチームが初めて成功した。撮影に使ったのは「走査透過型」と呼ばれる最先端の電子顕微鏡。水素原子の大きさは1千万分の1^ミ程度しかない。これとほぼ同じ細さにしぼった電子のビームを、水素とバナジウムの化合物の結晶にぶつけ、水素原子をとらえた。

幾原教授は「水素を使う燃料電池など、次世代のエネルギー技術の開発にもつなが



る」と話している。5日付の日本の学術誌「アプライド・フィジクス・エクスプレス」に発表される。（小宮山亮磨）